



このパンフレットは、女慶学園学校説明会のスピーチを文字に起こした内容となります。
ご入学の検討にお使いください。

《ご挨拶》

当校の教育理念は、「優尊自立」。
優れた者を尊び、生徒それぞれが自立するための精神を構築することこそが、当校の教育理念でございます。

この優れた者とはつまり名家の生まれの女性の皆様のことです。

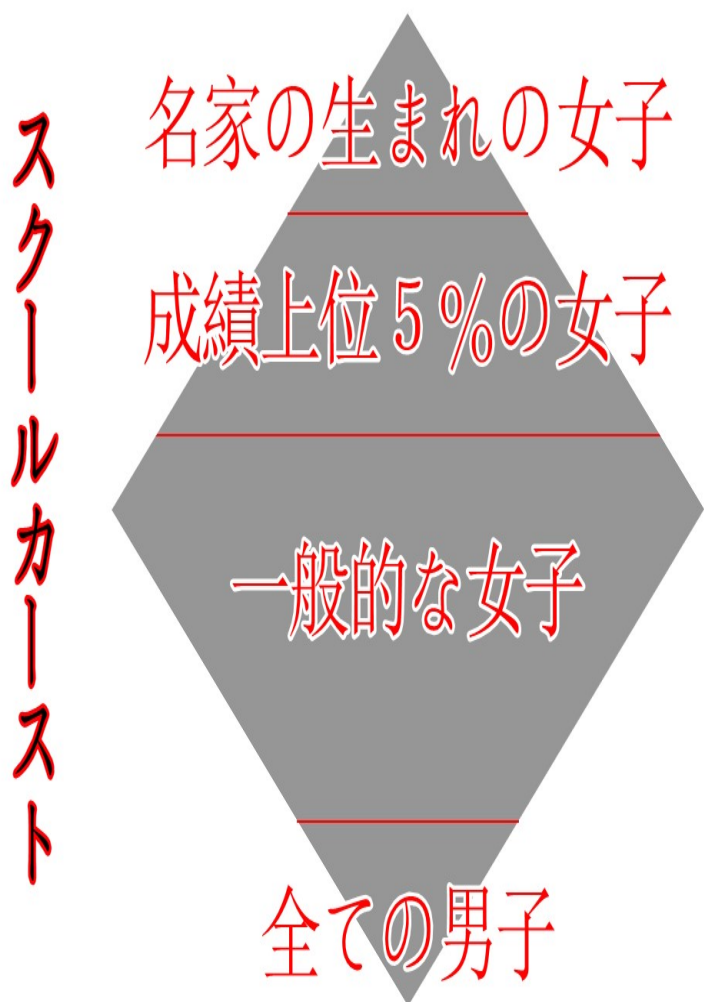
しかし、中にはこのことを理解できていない者も社会にいるのが実情。

ゆえに、学校教育の段階で社会的階層・ヒエラルキーを導入し、すべての生徒に「身分の違い」を理解してもらう必要があります。

そのためには、スクールカースト制度が最も正しい選択肢であると当校では確信を持って、教育の現場に立っております。

まずは、中央のスクリーンをご覧ください。

当校のスクールカースト制度は図のようになります。



では下から順にご説明致します。
まず、最下層に位置する男子。

これは議論の余地がありません。
この30年間で最も優れているとされた男子でさえ、体力・知力ともに女子の平均値の半分に届かなかったのですから。

また男子の数自体が減少傾向にあります。

生物として劣る種が減少するのは、まさに自然の摂理そのものですね。

次に一般的な女子。

ここに属する女子は、成績も生まれも全てが凡庸な女子生徒のことです。

男子ほどではありませんが、やはり下の階級であることは避けられません。

数も多いですし、名家の皆様からすると、使い勝手の良いコマ…ということになるでしょう。

実際、多くの一般女子は生涯にわたり名家の生まれの皆さんや上位5%に属する女性の下で働く…という生き方をするのが普通です。

当然学校でも一般女子は、名家の生まれの皆様どころか上位5%の女子にさえ絶対服従が基本です。

ただし、人権にはご配慮ください。

男子と違い、女子にも人権がございます。

あくまで社会の中で無理のない範囲で、お使いいただく…ということでもよろしく願います。

次に、女子にのみ許された努力と、才能を活かした成績上位5%の女子。

ここに凡庸な女子が入るには相当な努力が要求されます。

されますが、実現可能な一面からも凡庸な女子が目指すべき『目標』と言えるでしょう。

しかし、実際問題としては上位5%に入る女性はそのほとんどすべてが名家の生まれの方のみです。

『遺伝子から受け継がれる能力の準位性』が発見され既に一般的になりましたが、これが間違いでないという照明かと考えられます。

最後に、名家の生まれの女子。

これは皆様のような、大物政治家のご家庭など、人の上に立つこと。人の背に座ることを許された人間のみの階級となります。

DNAによる能力の準位性が認められ、社会的地位の高い人物の子供はそれだけ能力が高い。

鷹の子は鷹。しかし、一般女子のような豚の子は豚…という訳です。

しかし鷹の子であっても、男子は違います。

先程記載しました通り能力が女子に比べて著しく劣り、また自らの身分というものを理解できていない男子というものもまれに存在します。

そういう男子が万一、名家の女子の皆様と同じ教室にいたら、親御様は大変疎ましく思うことがあるやもしれません。

そこで我が校では、全ての男子が最低でも校1年を2回。校2年を2回。3年を3回経験してもらうこととなっております。

つまりは『強制留年』。

さらに7年目以外の年度は男子を学生としては扱わず、学校の備品として取り扱います。

まず、授業中は廊下で全裸のまま水がなみなみ入ったバケツを両手に立たせ、授業以外の時間は女子生徒様の邪魔にならぬよう、ご命令がない限りは掃除用具入れなど目立たぬ場所に外側から鍵をかける形で監禁いたします。

また、7年間教師ならびに女子からの質問に答える以外の会話は一切禁止。

会話する際は畏怖・敬意・尊敬・敬愛が感じられないと女子生徒様が判断された場合、即時、体罰を行います。

体罰・懲罰・教育的指導など男子に対する女子の権限は幅広いですが、当校での体罰は尻叩きが基本となります。

懲罰は校門に全裸で立たせ、各々の女子がその場で実行可能な罰を、好き好きに行う形が基本です。

これらの罰は全て『社会人男性への罰統計白書』に則って決めております。

最後に教育的指導。

教育的指導は主に男子の行動を制限することが多いのですが、中には皆様のような名家の御出身の方にのみ許された行為がございます。

それは男子に貞操帯を嵌めさせ、強制的に勃起・射精などの愚劣な行為を抑制させることです。

これはかなり強烈で、男子生徒の依存心・忠誠心を確実に最上限まで押し上げることができます。

ただし、貞操帯は男子1人を事実上独占することになるので、周囲との軋轢が生まれぬよう、『名家の御出身の女子のみ』の特権とさせて頂いております。

上位5%・一般女子が行える育的指導は、男子に幼稚園生用のオムツを着用させる『年齢退行教育』が基本となります。

このように、男子に対しては一般女子であろうと、上位5%の女史であろうと皆様のような名家の御出身であろうと、関係なく自由に体罰懲罰、そして教育的指導などが可能です。

もちろん、男子の受ける試験はすべて女子と同じ問題です。

成績が女子の平均値の10分の1に届かなければ、さらに追加で留年。

このような生活を最低でも7年過ごし、ようやく男子は女子と同じクラスで授業を受けることが許されます。

自分たちよりもはるかに優れた女子生徒様のお近くに存在し、慈悲を乞うしかないのだという男子本来の姿にたどりついてから、ようやく同じ生活環境に身を置くことが許されるのです。

これでは男子がクラスに多くいるのでは…？とお考えになる方もいるでしょうが、その心配も不要です。

なぜならクラスの男子の総数は、多くて2名。

普通はクラスに1名です。

全ての女子に、男子がいかに劣る種であるか理解してもらうためにも、最低でも1名という国の規制があります。

これを実現するための7年強制留年でもあります。

男子というのはそのくらい数が少なくなってしまった劣等種でもあるのです。

《当校の卒業生とその学生生活》

さて、では次に当校の卒業生がどのような学生生活をしていたか、実例で御覧いただきましょう。

まず一人目のご紹介は、ヒエラルキーの最上位である名家の生まれの女子柊木香奈さん。この方は成績も上位5%に入る、まさにエリート。

女子の中の女子である、『女史』と言えるでしょう。

香奈女史は、後ほど紹介する柊木大輔（ヒイラギ・ダイスケ）の妹君にあたる方です。

しかし、柊木大輔と違う点は、『女性に生まれた』という点に留まらず、学校でも常に上位5%に入る才女でもあった点です。

当校の学生であるところから7つ年上の大輔よりも頭脳面・身体能力面・社会的信用において、遥かに優れており、文句のつけようがありませんでした。

現在は女慶大学医学部名誉教授、国連女権委員会日本政府代表であらせられます。





次にご紹介するのは、ヒエラルキーの最下層にいる男子。
柊木大輔。

今回の事例では、7年目の校3年生を迎えた男子生徒です。
成績は7年間一度もクラス最下位を脱出したことがなく、身体能力は女子の20分の1に
届きません。

もちろん、身長・体重とも同級生女子の平均値の半分にも届いておりません。

しかし、大輔には一点だけ他にはない特徴があります。

生まれが名家なのです。

ただし男子なので、なんのメリットもありませんが…（笑）。

卒業後は懲罰的男子強制徴用として、4年間の女性専用公衆便所の舐め掃除奉仕を終え、
現在は御慈悲を頂けたのか、香奈女史の事務所で無賃労働に勤しんでいます。



最後に、ヒエラルキーの下から二番目。
『一般的な女子』である木下絵里さん。

ごくごく一般的な生まれで、ごくごく一般的な成績の女子です。

特に優れた点はありませんが、強いて言えば胸が大きく、グラマーな体格です。

もしも、男女平等な時代であれば、さぞ男子からはモテたことでしょう。

もつとも、生物的に劣る男子が女子と同じ身分ということなど絶対にありえませんが…。

卒業後は無事にそれなりの…、身の丈にあった大学を卒業し、現在は香奈さんの事務所で、数多くいる部下の一人として働いております。

《学生生活》

では学生生活のご紹介に移らせていただきます。

春爛漫の4月。

クラス分けも終わり、新たなクラスメイトの顔合わせの際、香奈女史は、兄の大輔と出会ったしまったようです。

当然大輔は全裸。

そして香奈女史に命じられれば、絵里さんも全裸が基本。

同じ女と言えど、その格差は明確。

椅子になれと言われれば、四つん這いで椅子になるのが一般女子の義務というものです。しかし、大輔はこの程度では済まされません。

全裸のまま目隠しをされ、立たされ、チ○ポをじっくりと観察されます。

まあ、女子からすればこの程度はごく一般的な男子いじりの範疇といえるかもしれません。しかし、立たされチ○ポを観察されているのは、実の兄。

自ら全裸になるよう命じ、チ○ポをじっくりと観察し、嘲笑するは実の妹。

学年こそ同じとはいえ、その年齢差は実に7歳。

悲しい話ではありませんか。

そこに香奈女史が取り出したのは、金属製のチューブ。

いえ、正確にはチューブ型の貞操帯です。

クラスに1人しかいない男子のチ○ポを貞操帯で封じるのは、たしかに他の女子生徒から反感を買うことがあるでしょう。

しかし、実の妹。

名家の生まれの女子。

それらを差し引いても、成績上位5%の女子。

香奈女史を止める事ができる生徒はいません。

絶対上位者が全てに優先される。

これがヒエラルキーというものの本質です。

何も知らないのは、大輔ただ1人。

目隠しをされたまま、自分がこれから何をされるかさえ想像できていないようです。

香奈女史はそっと大輔の顔を見上げ微笑み、貞操帯をカチャカチャと鳴らします。



あゝあゝ。

勃起してしまいましたね。

実の妹にオナ禁強要されると分かって、…勃起（笑）

これは完全に、『当分射精出来ないなら今出してしまいたい』という浅ましい思いが噴出している、勃起と考えて間違いないでしょう。

まったく浅ましいものです。

当然ながら、実の妹に嘲笑の表情を向けられます。

なぜなら射精させることなどありえないから。

クラス分け当日の…、同級生になったばかりのタイミングで…、大輔に射精させるくらいなら、そもそも貞操帯など用意しないでしょう。

射精させたくないから、貞操帯を用意しているのですから。

大輔もそのことが分かっているようで、今にも土下座し、射精のオネダリをしそうなほど震え上がっておりますが、なんとか『立たされポーズ』を維持しているようです。

7年間も留年し、7年間も女子にいじめられ続け、7年間も身の程をわきまえるよう調教されてきたのですから、これぐらい我慢してもらわなくてはなりません。

我慢は当然。

大輔は男の子なのですから（笑）

そして目隠しの効果というのは、見えない恐怖…という言葉だけでは語れません。

目隠しをされると人間は、時間を長く感じるのです。

それは見えないことによる警戒心が、時間の密度を濃くしたことにより起こるのですが…。

おおよそ5分が30分に。

30分が2時間に感じます。

時間を伸ばせば伸ばすほど、感じる時間は比例して増えていきますが…、目隠しの時間はほんの数分でも相当な長時間の恥ずかしさを煽ることが出来るのです。

目隠しをされていない側の、周囲の人間からすれば、ほんの数分。

そのほんの数分でさえ、大輔には長時間視姦され続け、チ○ポの形・サイズ。卑小性。全てを包み隠さず見られたという認識だけが頭に残るのです。

さて、ちょうど折よく絵里とは違う一般女子が、香奈女史に頼まれた買い物から帰ってきたようです。

その手にはコンビニの水袋。

水袋の用法は勃起したチ○ポに押し付け、射精無しで勃起を収めることです。

香奈女史は黙って水袋を受け取ると、そのままギュッと大輔のチ○ポに押しつけ、見事に勃起を収めました。

可哀想に大輔は、射精させてもらえません。

そもそも射精させてもらえると期待する浅ましさも罰を受けて当然の行為ではありますが…。

事前に氷袋を買ってくるよう命じる香奈女史のこと。当然、大輔には相当に厳しい罰が与えられることでしょう。

しかし今は、ただただ香奈女史の、見事な手回し。見事な指示に惚れ惚れしながら、氷の冷たさに縮こまっていく大輔のチ○ポに注目しましょう。



さあ、先程まであんなに激しく勃起していたチ○ポは、あっという間に親指サイズ↓小指

サイズ↓小指未満のサイズに縮小していきますよ。

ありあり、アレではもはやチ○ポとは言えませんね。

本来女性が求めるモノとは、全くの別物。

しかし、これこそが本来の意味での男子のあるべき姿と言えるかもしれません。

何しろ、女性に挿入するなどという「あつてはならない行為」の為に、チ○ポを膨らませる行為自体が間違いの元なのですから…。

氷の冷たさに震え、香奈女史のお気持ちに震え、チ○ポを縮ませる姿はまさに男子のあるべき姿です。

そして、先ほど取り出した貞操帯。

これを嵌め、大輔が誰の所有物であるかをクラスの全員に分かるよう明示するのが香奈女史の狙いです。

そして、これはごくまれに勘違いした馬鹿な男がいるので気を付けなければいけないことです。が、本来貞操帯とは、男の純潔さを守らせるためのものです。

純潔さとは、「貴女様だけの所有物であることを誓います」という意味。

となれば、貞操帯は女性が『嵌めてあげる』ものではなく、男性が自らすすんで、『貞操帯を嵌め、鍵をお預かり頂くよう懇願する』のが正しい姿と言えるでしょう。

こういった世の摂理を当然のこととして理解されている香奈女史は、大輔に目隠ししたまま自ら貞操帯を嵌めさせ、自らの意思で鍵をかけさせていますね。

決して女性が『嵌めてあげる』などということの無いよう、重々気を付けましょう。

また、鍵はできるだけ高価で、重みのある南京錠がお勧めです。

学生に限らず貞操帯を嵌められた男は、必ず開錠を試みます。

しかし重みのある南京錠であれば、開錠されることはまずありません。

重さは、堅牢さの証でもあるのです。

絶対に開けられないのだと自覚させることが、より強い女性への依存心を育むことになります。

また、常に嵌めている貞操帯にさらなる重さが加わると、より強く『管理されている』自覚を持つようになります。

これは軽い鍵では起こりえないことなのです。

一般的には男子はクラスで1〜2名なので、女子全員の共有奴隷となりますが、今回のようにヒエラルキーの最上位を独占するような偉大な女史がいる場合にのみ、このような男子の管理を愉しむことが許されます。



また、同時にこういったプレイがきちんと行われることによって、ヒエラルキーの中央部にいるような一般女子などは、自分の身分というものを理解するようになるのです。『自分の下には、最下層の男子がいる。されど自分の上には最上位の同性がいるのだ』と。

さて、次は昼休みです。

名家御出身の皆様には先にお話しておきますが、昼過ぎ、大概の男子は学校の人が少ない場所に避難します。

理由は女子たちの暇つぶし、あるいはストレス解消のためのターゲットにされるので逃げようとするのです。

ある意味でのマゾ狩りゲーム。捕まったら懲罰のリアル鬼ごっこです。

7年目ともなれば大輔も慣れたもので、冷え性の多い女子が減多に向かわない、風の吹き荒む屋上に逃げ込んだようです。



貞操帯に慣れていないせいか、常時股間を両手で支えていて、実に情けないですね（笑）
こんな人間は人間扱いしないのが正しいでしょう。

そんな中、やはり香奈女史は大輔の行動などお見通しだったようで、屋上に向かいます。
大輔に限らず、男子がだあくいい好きな身体を持つ絵里さんを連れて…。

そして、大輔の見ている前で、絵里さんのおっぱいを揉む揉む。

こうすることで大輔に限らず、男子は全て。一切の例外なく醜い股間に血液を充填し、勃
起します。



しかし朝方嵌められた金属製の貞操帯はまだ外されておりません。となれば、当然大輔の貧弱なチ○ポは金属にその行く手を阻まれ、激痛に悶え苦しむことになります。

これは中々女性の方には理解されにくい痛みなのですが、女性に『女であることの誇り』というものがあるように、男性には昔『男の誇り』と言うものがございました。

そしてこの誇りは、一点に結集しているのです。

チ○ポという一点に…。

その一点に集中した『男の誇り』を金属製の檻で無理やり押さえ込み、勃起すれば強い痛みを与え、抗えば抗うほど敵わぬと思い知らしめる道具こそが貞操帯なのです。

貞操帯を嵌められた男子は、早ければ5分後には「勃起したくない」と強く念じるようになり、『男の誇り』を意識しないよう必死に努めます。

更には勃起できないので、オナニーも出来ません。

オナニーできないので射精も出来ず、湧き上がる性欲で悶々と時間を過ごすことになるのです。

痛みで男の誇りを制圧し、永久に続く『我慢』で男の心を砕く。

女性側にはなんのデメリットもない話です。

名家の御出身の方のみに許される特権ですので、是非皆様も当校にご入学の際は実践して下さい。

さて…、懸命な香奈女史は、絵里さんには事前にノーブラを命じていたようですね。

本当に柔らかかそうに、ぐにゅんぐにゅんと揺れるおっぱいを完璧なまでに演出できています。

本来、男子がこのような光景を見ることに学校としては反対の立場をとっておりますが、貞操帯でしっかりと制圧しているのであれば、なんの問題もありません。

むしろ推奨されるべき事案と言えるでしょう。

こうすることによって、チ○ポの付いた男子という自らの存在自体が、大変に恥ずかしい、無理のある存在であると、はっきりと男子に認識させることが可能なのです。

さらにはヒエラルキーの最上位。最も身分の高い女子は、たとえそれが実の妹であっても、男子の自分にはできない愉しみをいくつも持っているとして理解させ、身分の違いというものをさらにくつきりと認識させることができます。

力づくで胸を揉みまわし、強引に快楽をむさぼることのできる絶対強者と、快楽を提供するために肉体を差し出さない一般女子。

そして二人の女子を見つめ、指をくわえながらも、性欲を抑えるために必死で心を落ち着かせる…、ことさえ出来ない完全敗北者。

これこそがスクールカーストの形です。



同じ女性であっても、上位者の命令には絶対服従。
大人になってからも、続くのですから男子だけに限らず一般女子にもこれが普通だと女慶
学園の学生生活中に学んで頂きます。

《学校行事 女慶祭》

学校全体で取り組む最大のイベント『女慶祭』。

毎年多くのメディアから取材を受ける秋の名物行事です。

生徒会を中心として結成される女慶祭実行委員会、各クラブの中心メンバーが強いリーダーシップを発揮し、クラス展示やクラブ発表コーナー、模擬店、舞台発表など、女子生徒一人ひとりが創意工夫を凝らし、仲間と協力しながら素晴らしい青春の思い出を作り上げております。

男を弾劾する模擬裁判、男子調教や体罰体験など、女慶祭の生活を発表するコーナーもあります。

今回ご紹介するのは、模擬店を行った柊木香奈女史のクラス。

模擬裁判、男子調教や体罰体験は実際にご見学にいらっしゃるか、ご入学されてからお楽しみください。

さて、女慶祭では当校のスクールカースト制度が存分にその力を発揮します。

具体的に申し上げますと、立場というものが自動的に決まるのです。

今回の模擬店で言うと、

- ・名家御出身の女子は、経営陣。
- ・上位5%の女子は、店長クラス。
- ・一般女子は、バイト。
- ・男子は奴隷。

となっております。

これは指示系統が社会に出た際と同じ形態をとっているためです。

男子は当然厳しい労働が待っており、どんな些細なミスでも厳しく体罰・懲罰の対象となりますが、場合によっては一般女子も懲罰体罰の対象となります。

経営陣は利益を上げることが目的に仕事をしますので、当然ですね。

さて、女慶祭前夜。香奈女史の兄である大輔がついに過労で倒れてしまいました。4月に貞操帯を嵌められて、すでに半年。

あれから一度も射精させてもらえておりません。

キ○タマもパンパンに膨れ上がり、精神的にも肉体的にも限界が来ていたようです。

そこに駆け付けたのは香奈女史と、すっかり香奈女史の子飼いとなった絵里さん。

香奈女史は気絶した大輔の貞操帯を外すよう、絵里さんに命じました。

まず貞操帯を外したばかりの男のチ○ポは大変に不潔で、臭いものです。

そして、全ての男は女性に比べ明らかに脳の発達が遅れているため、チ○ポに刺激を与えられただけで、簡単に元氣を取り戻してしまうことがあります。皆様、もうお分かりですね。

そうです。香奈女史は絵里さんにフェラを命じたのです。



絵里さんにとって初めて啜えたであろうそれは、あまりに臭く、あまりに汚く、あまりに貧弱で、そんなものを口に入れなければならない身分に絵里さんは涙を流したことでしょ

う。
しかしそんなことは、ヒエラルキーの最上位であらせられる皆様にはなんの関係もありません。
むしろ、そういうところで心にブレーキをかけない女子こそが、出世の早い女子と言えるでしょう。
その点やはり、後に女慶学園医学部名誉教授、国連女権委員会日本政府代表となる香奈女史は違いました。



絵里さんの後頭部をしつかり踏んで、チ〇ポをのどの奥まで突っ込ませ、綺麗に舐め磨き終わるまで顔を上げることを許しません。

万一、大輔が気絶したまま射精してしまったとしても、それはモタモタしている絵里さんに問題があるのです。

大輔にはしっかりと刺激を与え、過酷な労働に励んでもらわねばなりません。

また、大輔は女慶祭当日は下半身裸のまま給仕をすることになっています。

前夜とはいえ、他のお客様の前に立たせる都合上、そろそろ綺麗にしておく必要があるでしょう。

何度も何度も絵里さんが嗚咽を漏らしても香奈女史は許しを与えることなく、むしろより強い力で後頭部を踏み、大輔の掃除を促す。

これから受験をなさる皆様には人の上に立つ女性とはこういうことができる女性なのだとぜひこの機会にご理解を賜りたく存じます。

さて、女慶祭最中の様子は報道各社によって広まっておりますので、ここでは割愛させていただきます。

その代わり、よそでは見れない、女慶祭の後に行われる反省会の様子を皆様にはご覧いただきたく存じます。

というのも女慶祭には模擬店売上ランキングというものがございます。

模擬店として参加したクラス・クラブの売り上げ順位を争うものなのですが、どうやら香奈女史のクラスは2位だったようですね。

ちなみに、1位はボクシング部の貸人間サンドバックの模擬店で、男子を天井から吊るし、時間内でお客様に好きなだけ殴ってもらおうというオリジナル性あふれる模擬店でした。

こうなると怖いのは、香奈女史から大輔や絵里さんといった『下の者』に対するお仕置きです。

成績が悪いのであれば、上位者は『お仕置き』を与え、改善を図らねばなりません。

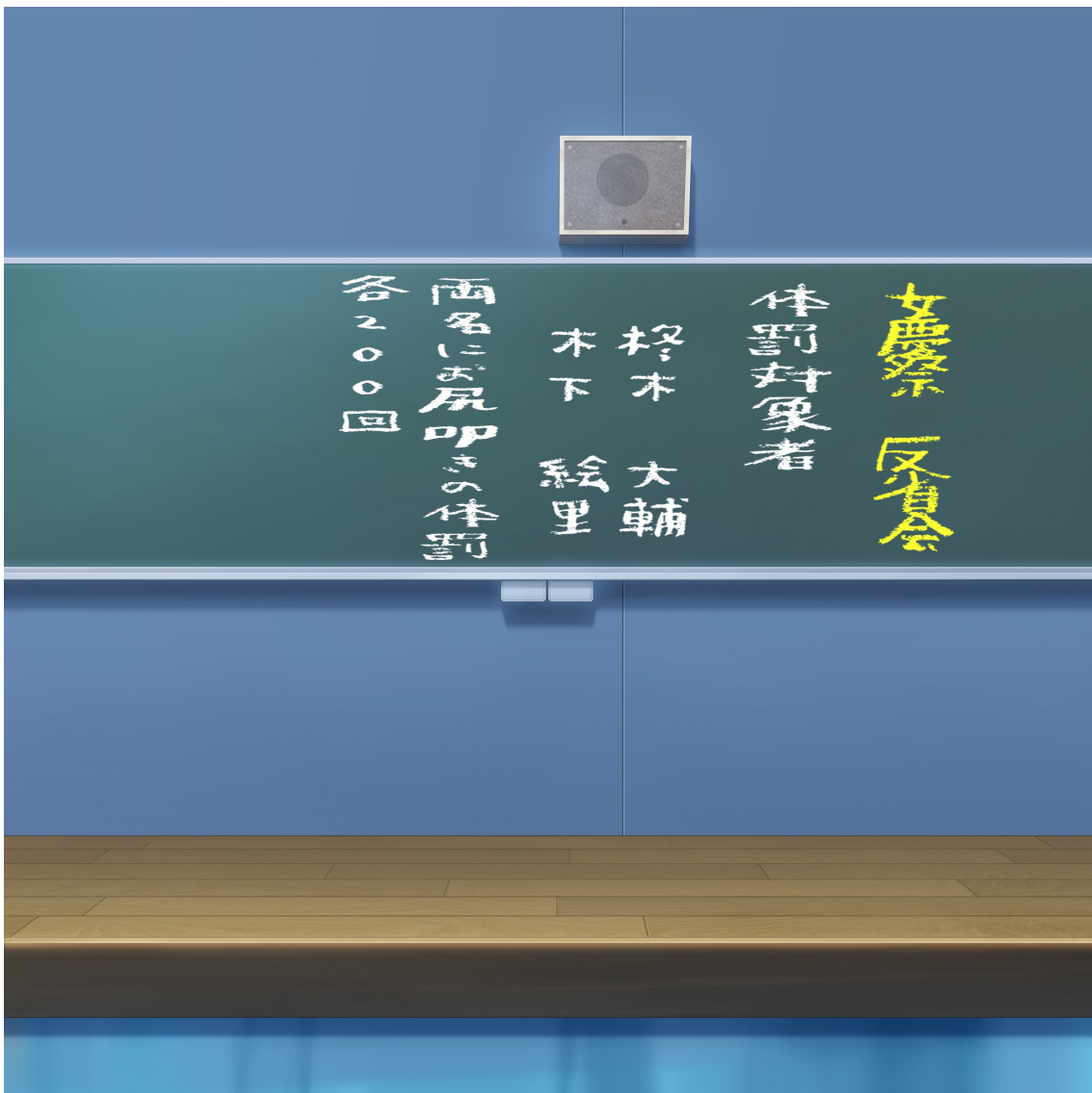
たとえこれが校生活最後の女慶祭であってもです。

まずはクラス全員が集められ、反省会が開かれます。

当然、責任と厳しい罰を求める声が大輔に浴びせられます。

しかしここで慈悲深い香奈女史は、社会で生きていくうえで絵里さんが勘違いしないよう、絵里さんにも同様の罰を与えるべきだと主張されました。

当然、名家の御出身の女子の発言は他に優先され、黒板に大きく、体罰対象者とその体罰が書き込まれます。



そして体罰対象者は、下着以外すべて脱ぎ捨て、下着を半脱ぎ状態のもつとも恥ずかしい状態で、黒板の前に立たされ、体罰を受けることになります。

今回は、大輔と絵里さんが罰を受けることになりましたが、罰を与える側は香奈女史だけではありません。

香奈女史を含む、大輔と絵里さん以外の全てのクラスメイトが二人に尻叩きを各200回ずつ与えるのです。

無論、体罰を与え終わった生徒たちは帰りますが、この二人だけは喫茶店の後片付けを行い、さらに翌日朝までに反省文を原稿用紙500枚分書かなければなりません。

名家の御出身の皆様の中には、原稿用紙500枚は多いと感じる方もいらっしゃるでしょうが、最後の女慶祭ということを考えると、むしろ少ないくらいです。

まあ、今回に限って言えば、反省文を受領するのが香奈女史ですので、きわめて厳しいハードルを超えなければ、何回でも『やり直し』となるでしょう。



特に大輔の場合、卒業までにそのハードルを超えられるか不安なくらいです。
永遠に毎日500枚の反省文を書き続けなければならないかもしれません。
そこまで考慮に入れると500枚という数字は存外妥当な数字かもしれません。
遅筆な男子でも、500枚なら一晩あれば書けますからね。



皆様はすでに男子のお尻は相当に叩き慣れているかと思いますが、できることなら当校に
いる間に、
・男を尻叩きだけで気絶させる。



- ・男を尻叩きだけで屈服させる。
- ・男を生かさず殺さず、只々泣かせる。

この3点はだけでも確実に実行可能なように、体で覚えていただき、一生ものの財産として頂きたいと思います。

さらに、できることなら男子に対する尻叩きと同じように女子に対する尻叩きも

- ・女を尻叩きだけで失禁させる。
- ・女を尻叩きだけで服従させる。
- ・女を生かさず殺さず、只々泣かせる。

の3点も覚えていただきたく存じます。

これは具体的に何度も体験して、身体で覚えていただくのが一番の近道です。







あら、最後の画像では大輔が泣き始めてしまいましたね。

まあ仕方ないことでしょう。

この後彼は、他の全ての女子生徒から尻叩きの体罰を受けることになるのですから…(笑)

女性への体罰・懲罰・教育的指導。

社会に出ればこのようなことは日常茶飯事にございます。

実際、香奈女史は成人してから絵里さんを部下として雇い入れ、日々鞭を振るっておられます。

《卒業後の進路に関して》

さて、最後になりましたが卒業後のお話をさせて頂きたいと思います。
当校の女子の進学率は100%です。

女子に関しては、上位5%・およそ30名ほどが東○大学に。
残りの上位45%が女慶大学に。

残りは、他の国公立大学に進学することになります。

なお、男子は国の規制により、大学に進学することは出来ません。

そのまま懲罰的男子強制徴用として国の仕事に従事することになります。

大輔は、女性専用公衆便所の舐め掃除奉仕に従事することになりました。

ちなみに、香奈女史は東○大学に現役で合格、絵里さんは、まあ…一応お○の水大学に現役合格しました。

一般女子ですから妥当なところでしょう。

さて、先ほども申し上げましたが、卒業後大輔は国の仕事に強制徴用されます。

これは避けられません。

しかし独占欲の強い香奈女史のこと。

強制徴用されても、他の女性に大輔をいじられるのはどうしても嫌だったようです。

そこで、香奈女史は卒業式の日に大輔の男としての機能を潰すことにしました。

これは卒業生に毎年見られる光景です。

射精できない男を拾う女性などいません。

キ○タマを潰した女性本人以外は…。

つまり何が言いたいかと言うと、キ○タマ潰しという行為は「この男は他にご主人様がいる」という消えないマーケティングなのです。

名家御出身の皆様のお父さんもその多くがお母様によってキ○タマを潰されているのも、同じ理由ですね。

卒業式も終わり、帰り際の玄関口で香奈女史は大輔と絵里さんを全裸にしました。

かつての4月に使った目隠しで大輔に目を覆います。

目隠しをされた大輔に、香奈女史は何も伝えていません。

さらに後ろから絵里さんに両手を掴まれ、逃げることも出来ません。

ああ、どうやら大輔は4月から何も進歩しなかったようですね。

これから何をされるのかと期待して、勃起しています。

そんな中、香奈女史が繰り出す一蹴りが容赦なく、しっかりと奥まで大輔のキ○タマにめり込みます。



4月の貞操帯はいつか外してもらえる拘束具ですが、今回のキ○タマつぶしはいわば一生



もののオナ禁です。

しかも一生治ることのない、完全なる去勢。

貞操帯で心を砕いても、男の誇りを制圧し時間をかければ回復させることができます。
しかし、キ○タマつぶしはダメです。

一切回復することはありません。

一生の我慢と抑圧を強制させることができます。

そして他の女性に「ちよっかい」を出させない、首輪にもなるのです。

どうやら、大輔にも自分の一生の主人が誰か分かったようです。

画像をご覧ください。



人生最後の射精という形で、香奈女史の慈悲に返礼を行ったと言えるでしょう。

本日この学校説明会にお越しの皆様は、皆様香奈女史と同じ『名家の御出身』。皆様にはぜひ香奈女史と同じように。

卒業記念に男の一生を所有するということを経験していただきたく存じます。皆様には、そのチャンスがあるのでから。

それでは、これにて学校説明会を終わらせていただきます。

ご清聴に感謝いたします。

本日はありがとうございました。

《終》